様式第６号(第２条関係)

委員会等の会議録

<table>
<tr><td>１　会議名</td><td colspan="2">第３回愛南町海業推進会議</td></tr>
<tr><td>２　議題</td><td colspan="2">愛南町の海業の推進について</td></tr>
<tr><td>３　開催日時</td><td colspan="2">令和５年 12 月 13 日(水)　９時 30 分から 12 時 40 分まで</td></tr>
<tr><td>４　開催場所</td><td colspan="2">愛南町役場本庁３階　大会議室</td></tr>
<tr><td>５　傍聴者数</td><td colspan="2">２人</td></tr>
<tr><td colspan="3">出席者</td></tr>
<tr><td>６　委員氏名</td><td colspan="2">大石　常也、大野　甲子彦、大森　安洋、澤近　圭亮（代理：岡田　孝洋)、後藤　理恵、佐伯　謙、高橋　翔、田中　純樹、永元将博、濵　哲也、浜辺　隆博、深堀　毅、前田　眞、森　裕之、山本　正文、ヤング　亜由美、李　銀姫、若松　隆仁</td></tr>
<tr><td rowspan="2">７　担当所属</td><td>所属名</td><td>水産課海業推進室</td></tr>
<tr><td>担当職員
(職・氏名)</td><td>室長補佐　清水　貴光
係長　廣瀬　琢磨、清水　陽介
主査　吉原　勇作
主事　本田　美紀、賀屋　啓太、中村　一喜</td></tr>
<tr><td rowspan="2">８　その他の出席職員</td><td>所属名</td><td></td></tr>
<tr><td>出席職員
(職・氏名)</td><td>町長　清水　雅文</td></tr>
<tr><td colspan="3">議事内容(次ページから)</td></tr>
</table>

発言者	発言内容
清水室長補佐	定刻になりましたので、ただ今から第３回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。開会に当たりまして、愛南町長清水雅文から御挨拶を申し上げます。
清水町長	（開会挨拶）
清水室長補佐	それでは、次第に沿って進めさせていただきます。これから第一部に移ります。ここからは、懇話会の規則に従いまして座長を水産課長の濵に引き継ぎます。
濵座長	本日もたくさんの委員の皆様に御参加いただき誠にありがとうございます。それでは、第２回海業推進会議の振り返り等について、海業推進室の浜辺から説明させていただきます。よろしくお願いします。
浜辺委員	御手元の資料に沿って御説明します(以下説明概要)。 【第２回の振り返りについて】 ・第２回では、第一部で第１回の振り返り及び価値総合研究所から地域経済循環分析についての説明をいただきました。その中で、食料品加工、卸売業などの域外流出の抑制によって所得循環構造を構築する町内産業の「総海業化」という考えが示されました。 ・第二部のでは、四つのテーマについて５グループに分かれ、ワールドカフェ方式で意見交換を行いました。今回、その中から出てきたアイデアなどを資料として配布しています。 ・なお、本日は、前回までのグループワークや事前に提出いただいたアンケートに基づいて本日の第二部のグループワークを進めていきたいと考えています。 【第２回会合以降の取組の説明】 （資料を基に説明） ・10 月 27 日に情報交換会を開催しましたので、主催者の田中(純)委員から簡単に御紹介願います。
田中(純)委員	10 月 27 日に森委員のカイタク舎で情報交換会をしました。16 人が参加し、有意義な意見交換ができたと考えています。

発言者	発言内容
浜辺委員	続いて、９月 20 日以降、２回の運営委員会を開催しました。大野委員から御報告いただきます。
大野委員	運営委員会では、グランドデザインの策定に向け、グランドデザインとは何かというところから始まり、更に具体性を持たせた方が良いのではないか、何をしても海業なのではないのかなど様々な意見が出ました。本日は、観光部門、子供の夢など今まで出てきた様々なアイデアを細分化し、見直していく段階だと考えています。また、グランドデザインがどのような位置付けなのかということについても議論しました。そこでは、海業について話し合うメンバーが育ち、自分たちでやっていくことが一つのゴールであるなど様々な意見があり、グランドデザインはこの推進会議が一つの舟とすると羅針盤、将来の行く先を設定していくものだという話になりました。本日は、その点を押さえていただいて会議を進めていきたいと考えています。また、ＰＲについては、グランドデザインが決まれば、様々な場所で町民の皆さんに説明し、海業の乗組員は愛南町民全員だという意識付けをしていきたいという議論を行いました。以上です。
浜辺委員	ありがとうございます。運営委員会には大野委員以外にも田中(純)委員、深堀委員、後藤委員、前田委員、佐伯委員、高橋(翔)委員に出席いただきました。その雰囲気を共有しながら進められたらと考えています。第２回以降の取組については以上になります。
濵座長	浜辺委員ありがとうございました。御質問は第一部の最後で受け付けます。 次に「海業関連産業の域内取引構造の現状と課題」について、水産庁の委託業者である株式会社価値総合研究所から発表していただきます。よろしくお願いします。
鴨志田氏	皆様おはようございます。株式会社価値総合研究所の鴨志田と申します。本日は、「海業関連産業の域内取引構造の現状と課題」について説明します。最終的に海業で地域の所得向上と雇用拡大を目指す中で、現状の取引構造を見ながらどこに課題にあるか前回の内容も交えて説明させていただきます。

発言者	発言内容
	（以降、資料に沿って説明。以下ポイントを記載） ・前回、地域経済循環を構築するためには外に出るお金を減らすこと、つまり「たくさん稼ぐこと」と「稼いだお金を地域内で回すこと」が重要というお話をしました。前田委員からも「バケツの水を増やす」話と「バケツの穴を塞ぐ」話をしていただいた内容です。現在外に出ているお金をできるだけ外に逃がさずに中で回していき、生産や販売も拡大することで分配につなげ、所得循環構造を作っていくことがこれに当たります。 ・また、愛南町の構造は、水産業が域外の所得を多く獲得している産業である一方、卸売や食料品製造は、域外に流出している金額が大きいので、この部分を地域内で回せば、町内で所得を循環できるのではないか、また、水産業をスタートとした取引構造がまだまだ構築されていないのではないかというお話をさせていただきました。 ・次に、東京商工リサーチというデータベースを基に愛南町にある企業が、どこの地域と取引しているかということを説明します。 ・８ページの表は漁業・養殖業を中心として、どこにあるどういう業種から仕入れ、販売しているかを示しています。漁業・養殖業では、域外の製造業や卸売業との取引が多いです。 ・９ページは、水産食料品製造業及び生鮮魚介卸売業について同様の分析をしたものです。水産食料品製造業は規模が大きくありませんが、仕入先は漁協を中心に町内での取引があり、売り先は様々です。生鮮魚介卸売業の仕入先は域内の漁業や卸売業がありますが、販売先は域外が多いです。 ・10 ページは、町内の事業者に、実際にどこから仕入れて、どこに販売しているかというアンケート調査の結果です。 ・一部を紹介すると、民宿では地域内での調達率は非常に高い結果となりました。また、マリンレジャーですと、酸素ボンベは域外ですが、ほかのものは域内だということが分かりました。そのため、このような小規模事業者は比較的域内で調達できていると言えます。 ・これから観光を進める中でもこのような形で域内調達を増やすことは重要ですし、その余地があることを示していると考えています。ただし、大規模になり、域外の業者と取引するようになることは本末転倒です。

発言者	発言内容
	・また、域内から仕入れることは良いことですが、その仕入れたものは果たして地域の中のものなのかも考える必要があります。末端の小売やサービス業との取引があってもその交流事業が取り扱うものが域内のものでないと意味がありません。小売業や卸売業も地域の中のものを扱わないといけないという逆の示唆もあるのではないかと考えています。 ・以上をまとめたものが 11 ページです。漁業・養殖業については、域外との取引が多いので、今後は域内の各種産業との取引を強化していくことが重要です。ただし、一番高く買い取る業者と取引するのは当然ですので、域内でインセンティブが働くような取引構造が必要です。 ・水産食料品製造業については、現状規模は小さいものの、域内取引ができつつあります。これは、域内取引のポテンシャルはあると考えられるので、仕入れで漁業、卸売との取引を強化することや域内の小売、飲食等との取引(販売)側で強化することが期待されます。 ・ワークショップでのアイデアの中で出た残さの肥料化もある意味で水産関連製造に関連すると考えています。 ・補足として、地域経済循環のデータは 2018 年となっており、その後に稼働したサンフィッシュのデータが入っていません。恐らく今の循環図よりも域内循環ができていると考えています。いずれにしても規模が小さい状況ですので、拡大は必要だと考えています。 ・卸売業については、町外との取引が多いです。卸売業は、様々な産業をつなぐ機能がありますので、漁業、製造業、小売業、サービス業をつなぐ卸売機能の拡充が期待されます。 ・加えて、生産者や消費者、情報をつなぐコーディネート機能のような役割、地域商社的な役割を果たすと、観光とも絡むことができます。観光ですと、最近ＤＭＯという地域内の観光をまとめる組織を作る事例があり、将来的にできれば、様々な産業をつなげてくれるのではないかと考えています。 ・小売業・飲食業については、地域の資源は多いので多様な流通形態、取引形態を用意できると良いと考えています。 ・最後に、海業推進のポイントとして、何をやるか、何を売るかも大事ですが、加えて誰がやるか、これは地域内の事業者、地域内の担い手がやるということが重要です。新しい取組や事業がスモールスタートして、できるだけ地元の資本、資源、

発言者	発言内容
	人材で取り組むことが重要です。良い資源になると逆に外の業者が参入してきますが、任せ過ぎるのも地域のためには良くありません。 ・そのため、分野間連携、産業、ほかの各産業との連携も必要だと考えています。最近、農福連携という農業と福祉の連携みたいな話がありますが、水産業でもそのような取組をしていくことが重要です。 ・最後のページは前回の資料と同じです。町内産業の「総海業化」、何度も申し上げていますが、様々な産業間をつないでいくことをできるだけ地元で話し合うことが重要です。今回の調査でも、課題はあるけれどもポテンシャルもあることがデータ上でも見えてきました。これらを皆さんのアイデアに加えながら進めていただきたいと考えています。
濵座長	ありがとうございました。ここまでで質問等があれば、お受けします。
後藤委員	ＤＭＯというものを初めて耳にしたのですが、その地域の中に商社的な動きをするということは、具体的にどういうものでしょうか。
鴨志田氏	地域商社は様々な形があります。例えば道の駅のようなところで地域内の特産品を１か所に集めて様々な人に御紹介しながら販売することが、ある種最低限の地域商社に当たると考えています。これに売れ具合などを含めて提案するような企画機能も加えていくなど、広がり方は多様です。共通しているのは生産側と販売側とをつなぐということです。そのため、ニーズをくみ取って商品化をして販売する部分全体に関わります。総合商社というと様々ありますが、地域の産品に特化した商社と捉えていただくと分かりやすいと思います。
李委員	海業を推進するほど水産業の福祉事業への貢献度も高くなるため、双方に相乗効果があります。そのため、今後の愛南町の海業においても水福連携は可能性があると考えています。
濵座長	それでは第一部を終了します。

発言者	発言内容
	（休憩）
濵座長	それでは第二部のグループセッションを始めます。進め方と水産庁が公表した海業の取組事例について海業推進室の浜辺から説明していただきます。
浜辺委員	今年度の一つの目標は、グランドデザインを作ることです。そのために皆さんに出していただいたアイデアを選んでいかないといけません。すぐできるもの、時間がかかるもの、そこまで重要ではないもの、今はできないかもしれないが重要といった評価をグループワークで行っていただきます。 これまで、価値総研さんの話や、以前紹介した小中学生へのアンケート、作文、絵の中など、様々なアイデアが出てきました。生活者の視点としての話もありました。それらを思い浮かべながら、議論を進めてください。 今回、アイデアの評価軸をマトリクスにしたものをお配りしています。横軸に時間、縦軸に重要度として、１から９のマトリクスにしていますので、これを皆さんに議論して選んでいただきます。大野委員に、分かりやすいラミネートの資料を作成していただいています。これを見ながら議論を深めてください。 「これまで出てきた想い・アイデアとりまとめ」という資料の最初のページに小中学生のアンケート結果をまとめています。ＰＲや食、自然、レジャー、環境、施設、仕事等がこのようになってほしいといった想いが書かれています。 その次のページから事前アンケートに出てきたアイデアについてまとめています。「域内外交流の促進」、「域内ネットワークの充実」、「環境の保全と利用」の三つを小見出しとしています。それぞれのアイデアに丸数字を書いていますので、それに沿って議論してください。これまで地域外の所得を獲得する「バケツの水を増やす」話と、地域外へ流出する所得を抑える「バケツの穴を塞ぐ」という二つの視点を議論してきました。両方大事な視点で、何かを残すとか残さないとかそういう議論ではなく、どれくらい大事かを皆さんに議論いただければと思います。 次に水産庁の海業の取組事例集の 24 事例から三つ紹介します。水産庁は①渚泊・体験・観光、②釣り、マリンレジャー、③飲食、販売、④漁港を活用した増養殖、⑤市場・加工場の整備と

発言者	発言内容
	いう五つの海業のジャンルを設定しています。愛南町に近しい事例、あるいは今まで議論してきた中で出てきたアイデアが実現されている事例として７番、21 番、24 番を御紹介します。 ７番は山形県鶴岡市の由良漁港です。鶴岡市の人口は 11 万人ですが、市の面積が愛南町の５倍程度ですので、人口密度は愛南町とほとんど変わらない町です。地元漁業者の若手有志が観光客の減少を何とかしたいという想いから、自治会や観光協会、漁業団体に呼びかけて自分たちで協議会を作りました。この協議会が様々なイベント、商品の開発、漁業体験プログラムを提供しています。そうすることでファンとなった来訪者がリピーターとなり、更に知人に紹介をしてどんどん話が広まり、更には修学旅行といった体験型教育旅行の需要も出てきたという事例です。イカの一夜干し作り、定置網を起こす体験、ヒット商品の開発、マリンレジャー体験(釣り堀)が行われています。また、漁船クルージング、お祭りの一環で海中神輿といったイベントがこの場所で展開されています。この取組は今でも続けられており、かなり持続性の高い取組ではないかなと評価しています。 次に 21 番の福岡県宗像市です。これは福岡市が近くにあるので愛南町とは似て非なる事例ですが、ここは「道の駅むなかた」が地域産業の振興と交流人口の増加を目標に掲げる拠点施設になっています。ここでは、３分の１の商品が水産物で、漁業者が直接販売していることから、価格決定権が漁業者側にあり、所得の向上につながっているとのことです。更に近くの漁港の中に活魚センターがあり、鮮度の高い魚を来訪者の皆さんに提供できるようになっています。 最後に 24 番の沖縄県伊江村の具志漁港です。沖縄県の本島の隣にある離島です。ここでは以前から実施していた民泊事業に加えて、漁協の協力のもと漁業体験できるプログラムを展開しており、釣り、追込網など漁業の体験、小型の漁船を使ったレース体験、漁師の文化を学ぶなどの取組が行われています。民家に住み込みながら家業の手伝いをすることが文化の学習体験につながり、パッケージツアーとして商品化しています。 今、御紹介した三つの事例は、全部愛南町でできるのではないでしょうか。誰がどのようにつないでいくか、事例はありますので、皆さんの熱い議論をお願いします。 これから議論をしていただきますが、コーディネート役を大

発言者	発言内容
	野委員と田中純樹委員にお願いしています。よろしくお願いします。私からは以上です。 （グループワークを実施（約２時間）） それでは皆さん時間になりましたので、最後にどのような話合いの内容だったか感想を含めて発表していただきます。
濵座長	
田中（純）委員	Ａ班はまず、町内の宿泊施設などのハードがないが宿泊施設と連携して成立するような事業のアイデアが多いという話をしました。重要度が低いものはほとんどなく、ほぼ重要度が高くなりました。
前田委員	補足的に説明します。重要性の判断基準自体が、愛南町ならではの強みを生かすという視点が多かったと感じました。 外貨を稼ぐ話については、学びを取り入れた体験型のツーリズムの視点が多かったです。その中で娯楽系の話と教育系の話、山とどう連携していくかという話、初心者向けの視点での話などについて議論しました。 また、ツーリズムの中でもメニューの充実に関する議論が行われました。特に着地型観光でいうと、地域で提供できるメニューをどう充実させていくかという視点と、基盤となる施設の話、例えば廃校などを活用して施設を用意すると良いのではという話、特に宿泊に関する施設については、要望も高く、緊急度もあるという話をしました。 また、学びという視点から考えたときに指導者の育成（有料ガイド）や、シルバー人材の活用は良いという話をしました。さらに、子供たちがぎょしょくを学ぶ、一般の人が学ぶこと、スキューバダイビングや小型船舶免許などの免許取得等も海への興味を高めていく一環になるという話をしました。 また、人材育成として、域内循環を図るという意味で生産者と飲食店のコラボレーションを充実するための環境づくりを行う地域商社のようなコーディネート組織を作って進めていくことが大事という方向性を共有しました。そこでは体験メニューや人材育成環境の充実などを積極的にできると良いと考えます。基盤の整備は行政に少し応援してもらえると良いです。 域内流通の話では、起業支援の人材育成や、新規就業を図る

発言者	発言内容
	ことで人口定着につなげる話、輸出人材育成など具体的な話もありました。 　愛南町の強みを維持していく観点では、環境系の動きとして海ごみ対策や、へい死した魚の再資源化などの仕組み作りも急いでやる必要があるという議論になりました。
大野委員	Ｂ班は１、２、４、５の評価が多くなりました。宿泊施設を海業に盛り込んでいくことや、他の業種との連携も重要だという議論をしました。また、資料館についてはお金の観点から施設は難しいと思うので、もう既にある点在した資料室の資料、情報などを集約したデータベースを作ると良いのではという話も出ました。ただ、未来への投資、仕事を作ることも必要という話もしました。須ノ川に企画されている海洋センターもそういった場になるという話をしました。 　海業としての重要度という視点で考えることが難しかったですが、今年度中にグランドデザインを作成するに当たり、今日は良い意見交換ができました。また、ごみの問題に関しては海業以前に、まず取り組まなければならない非常に重要なこととして、漂着ごみの回収処理などの取組が最優先だという意見が出ました。以上です。
濵座長	皆さん、長時間にわたり活発な議論ありがとうございました。最後にその他、連絡事項について清水からお伝えします。
清水室長補佐	２点お伝えさせていただきます。１点目、本日 13 時 30 分から第１回海業推進全国協議会が開催され、海業に関する基調講演と取組事例の講演が行われます。この後この会場でオンライン視聴が可能です。時間がある方は是非御参加ください。２点目、次回の海業推進会議については、１月 26 日金曜日か 31 日の水曜日に開催させていただきます。現時点で御都合が悪い日程がありましたら、お近くの職員に申し出てください。運営委員会については、年内をめどに別途お知らせさせていただきます。これにて本日の主要な議題を終了させていただきます。本日の配付資料と簡単な議事概要は後日公表させていただく予定です。本日は、御参加いただき誠にありがとうございました。